

私たちは
GREEN THINKING!
を応援しています。

 **Daiwa House®**

 **東京鉄鋼株式会社**
生産本部総合加工センター

 **とちぎ"コープ"**
「ともに」の力で、笑顔の明日を

 **株式会社 那須環境技術センター**

 **日神工業株式会社**

 **日豊工業株式会社**

 **株式会社 庭野建設**

人間の幸福度を高める上で不可欠な「街なかの緑」ですが、維持する仕組みは未成熟です。地域全体で緑を守り育てる新しい街づくりについて、宇都宮大学地域デザイン科学部の高橋俊守教授に聞きました。

（企画制作 下野新聞社ビジネス局）

GREEN THINKING!



P R

volume

10

現代人を癒やす樹木の緑

■宇都宮大に豊かな木々

宇都宮大学峰キャンパス内には、2メートル以上の樹木が200種1500本以上あることが研究室の調査で分かりました。どの季節にきていただいても四季を感じることができる大変見どころのあるキャンパスです。



▲宇都宮大学峰キャンパスの樹木

な役割を果たしていることが科学的に明らかになってきたからです。ストレスの多い情報社会が進む中、人間は心身を消耗させがちですが、木漏れ日や風で葉がそよぐ音、鳥のさえずりなどは、それとは正反対の「緩やかな注意力」を惹きつける効果があります。例えば、「木の下で15分過ごすだけで精神が回復する効果がある」といったことや、自宅や職場から300メートル以内に緑がある、窓から3本以上の木が見えるといった環境が、人間の幸福度（ウェルビーイング）を高めることが分かっています。

これからの街づくりにおいては、土地は人間だけのものではなく、人間ではない生き物にとっても住処であるべきだという「モア・ザン・ヒューマン（人間以上の世界）」や「ビオトープ（生物の生息空間）」の視点が必要です。

■社会全体で仕組み考えよう

現在、街なかの緑の管理は敷地所有者の自助努力に任されています。例えば、宇都宮市内の神社の多くには鎮守の森と呼ばれる立派な木々が確保されていますが、落ち葉の掃除や虫への苦情対応など、管理責任者の負担は限界に達しています。それは宇都宮大学も同じです。

また大木や名木ほど「危険で手間や経費がかかる」と伐採の対象になりやすいのが現状です。本来、街なかの緑は人間にとって必要不可欠なインフラであるはずなのに、「緑は大切」と言いながらもそれを守り育てるための公的な仕組みが未成熟というのが実情です。

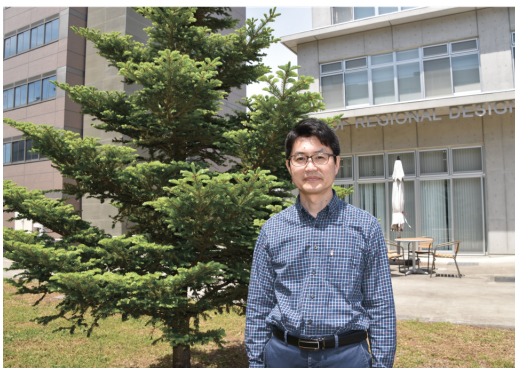
■見て感じ幸福度が高まる

なぜ樹木が必要不可欠なのでしょう。自然に恵まれた栃木県に住んでいると、少し遠出をすれば、樹木も緑もたくさんあることが当たり前過ぎてピンとこないかもしれません。

樹木が必要な理由は、樹木が、私たち人間の精神衛生上、極めて重要

樹木の管理責任を問われると同時に効率化が叫ばれる中、地域全体で「みんなで緑を管理し、守り育てる」という仕組みをどう作っていくか。人間と自然が共存できるインフラとして、まちなかに緑を組み込み確保していくための議論を、今こそ深めていくべきだと考えています。

樹木と人との縁を結び直す取り組みを通じて、緑の持つ多面的な意味や価値を再評価していくことが求められます。



▲樹木の効用を説く高橋教授